

## ウォリック・ソントン

国際的に知名度が高く、監督・脚本家・撮影監督として活躍している。直近の長編作品「スウィート・カントリー」は2017年のヴェネツィア国際映画祭審査員特別賞や、トロント国際映画祭プラットフォーム賞、アジア太平洋映画祭の長編映画賞を含め、30以上の賞を受賞している。オーストラリア中央部のアリス・スプリングスで生まれ育ち、ベルリン国際映画祭で賞を受賞した「Green Bush」や「Nana」のような短編映画の監督・撮影を手がけ、キャリアをスタート。長編デビュー作「サムソンとデリラ」は2009年カンヌ国際映画祭の新人監督を対象にしたカメラドールを受賞。また、長編2作品目「The Darkside」はベルリン国際映画祭に初出品された。ギジェルモ・アリアガの「Words With Gods」とティム・ウイントンの「The Turning」では、共に第1話の監督を務めた。このほかに2017年シドニー映画祭のオープニング作品「We Don't Need a Map」を始め、監督として数多くのドキュメンタリーを手掛けた。監督・脚本家としての名声を固めてきたが、撮影監督としても評判が高く、「ソウルガールズ」や「スウィート・カントリー」の撮影を務めている。また「Mystery Road」では、テレビドラマに初挑戦すると共に、カメラの位置及び撮影を担当している。

